

全数・定点報告疾患集計表（管内で届出のあった疾患のみ抜粋）

【全数報告疾患】

	疾患名	33週 ～34週	累計 (年)
2類	結核	0	2
3類	腸管出血性大腸菌感染症	0	1
4類	レジオネラ症	0	2
	E型肝炎	0	2
5類	百日咳	0	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	2
	梅毒	0	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	2
	アメーバ赤痢	0	1
	急性脳炎	0	1
	水痘(入院例)	0	1
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1
	多剤耐性緑膿菌感染症	0	1

【定点報告疾患】 ※県より上回っているものは赤字にしています。

疾患名	山武保健所		千葉県	
	33週	34週	33週	34週
インフルエンザ	0.20	0.67	0.84	1.8
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0.20	1.17	0.82	1.2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	0.67	0.88	0.91
手足口病	1.33	4.67	1.89	1.65
ヘルパンギーナ	0.67	0	0.35	0.26
急性出血性結膜炎	0	2	0	0.06
急性呼吸器感染症(ARI)	11.75	24.33	27.07	38.91

※定点報告疾患については、該当週に報告数0の疾患は掲載していません。また、第30～34週のグラフを別添しております。

感染症トピックス

TOPICS 1

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会開催に伴って、
感染症サーベイランスの取組強化が実施されます

2026年9月から10月にかけて、名古屋市内と愛知県内各所を中心に、愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会が開催されます。大会の開催前後は、選手等関係者や観戦のため、多くの訪日外国人客が国内に一定期間滞在することが見込まれ、感染症リスクが高まるおそれがあります。そのため、愛知県衛生研究所、名古屋市衛生研究所、名古屋市保健所及び国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所により、「愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会開催に向けての感染症リスク評価」（以下「感染症リスク評価」という。）が作成されました。

感染症リスク評価においては、世界的な流行状況、輸入例増加の可能性、感染拡大の懸念や重症度を考察し、特に以下の疾患を注意すべき感染症として「強化サーベイランス対象疾患」に位置づけ、感染症発生動向調査の取組を強化していくことについて提言されています。

これを踏まえ、平時の感染症発生動向調査を基礎とし、大会に係る感染症情報の収集、分析を強化するとともに、関係機関との情報共有を推進し迅速に感染症患者及び集団発生を把握することで、適切かつ有効な感染拡大防止対策の実施に資することを目的として、9月1日から感染症強化サーベイランスが実施されます。

感染症強化サーベイランスについて

対象疾患

麻しん、侵襲性髄膜炎菌感染症、中東呼吸器症候群(MERS)、腸管出血性大腸菌感染症

実施期間

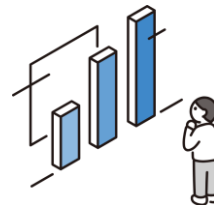
令和8年9月1日(火)から令和8年11月7日(土)

実施主体

愛知県及び保健所設置市が主体となり、大会組織委員会と連携するとともに、県医師会等関係団体、医療機関の協力を得て実施

実施体制

- 1) 大会感染症情報センター
大会に係る県全域の感染症患者情報を収集、分析し、全国情報と併せて、関係機関に提供するとともに、WEBページ等により情報発信を行う。
- 2) 愛知県内の保健所
大会に係る感染症患者情報、疑似症情報の収集及び還元を行う。
- 3) 県等
大会組織委員会と連携し、大会に係る感染症患者情報の収集及び還元を行う。また、必要に応じて記者発表を行い、広く県民に対して情報提供する。



2026年8月13日に発生した令和8年8月千葉豪雨で県内各地で浸水被害が発生しました。管内においても、浸水被害が発生しており、消毒等の対応を実施しています。

災害時には、汚染水の誤嚥による肺炎や創部感染など、感染の危険が増す感染症があります。また、夏季の被災では、高温・多湿と停電・断水が重なり、食品や水、皮膚を介した感染症のリスクが高まりますので、感染対策の実施をお願いいたします。

具合が悪くなった場合には、早めに医療機関を受診し、ご自身の活動内容（大雨で被災した、浸水した家屋の清掃作業をした等）についてお伝えください。

特に注意が必要な感染症

レジオネラ症	破傷風	レプトスピラ症
潜伏期間 2～10日 症状 全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状を呈します 感染経路 河川の水等を吸引・誤嚥したことによる感染、汚染された土壌の粉塵を吸い込んだことによる塵埃感染、エアロゾルを発生される環境を感染源としています 感染対策 清掃等の作業にあたる場合にはマスクを着用しましょう	潜伏期間 3～21日（平均10日） 症状 開口障害、顔面けいれん、嚥下障害などから始まり、呼吸困難や後弓反張に移行します 感染経路 外傷から土壌中の芽胞が侵入することにより感染します 感染対策 ワクチンが有効です。けがをした場合には、土壌などに汚染された傷を洗浄しましょう	潜伏期間 5～14日 症状 悪寒、発熱で発症し、軽症型では風邪様症状のみで軽快しますが、重症型では黄疸や出血、腎障害などが起こります 感染経路 げっ歯類をはじめとする保菌動物の尿で汚染された水や土壌に、傷や粘膜が接触することによって感染します 感染対策 感染動物の血液や尿、汚染された水や土壌と傷口や粘膜が接触しないよう適切な服装をしましょう

暑い時期に問題となりやすい感染症

種類	感染症名
食品・水を介するもの	感染性下痢症・食中毒
水系・エアロゾルを介するもの	レジオネラ肺炎、汚染水の誤嚥による肺炎
皮膚・接触によるもの	とびひ（伝染性膿痂疹）、毛包炎などの皮膚化膿性感染症 白癬（足白癬・体部白癬）、あせもに続発する皮膚感染
外傷を伴うもの	創部感染（復旧・がれき撤去作業）、破傷風
昆虫媒介	蚊媒介感染症（日本脳炎 等）
小児に多い夏の感染症	手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）

【引用文献】

〈愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会開催に向けての感染症リスク評価〉
<https://id-info.jihs.go.jp/mass-gathering/asiad2026/risk-assessment/index.html>
 〈愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会における感染症強化サーベイランス〉
 〈千葉県感染症情報センター週報2026年第33週〉
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/wr2633.pdf>
 〈一般社団法人 日本感染症学会 震災時に問題となる感染症一避難所・災害現場で注意すべき感染症とその対応〉
https://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=65#11